

### 3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

#### (1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

平成15年度から東北大学21世紀COEプログラム「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点」を実施中である。この拠点の事業推進担当者24名の内の8名が情報科学研究科の教員である。

平成17年度「大学教育の国際化推進プログラム（海外先進教育実践支援）」に本研究科からの提案である「次世代ソフトウェア実践教育プログラム－国際的教育プログラムによる先進ソフトウェア実践教育システム構築－」が採択され、平成18年5月に調査報告書を公表した。また、平成18年度には本研究科の提案である「先進的ICTリテラシー強化教育プログラム」が採択され、実施中である。ICTリテラシー国際会議 International Workshop on Information Communication Technology : Theory and Practice towards u-World を平成18年12月21日－23日に開催した。ドイツ、イタリア、韓国等の諸外国からの招待講演者を含めた17名の講演があり、活発な討論が行なわれた。

平成18年度の海外先進教育実践支援制度に1名の助教授が採用され、平成18年9月から半年間インペリアル大学（ロンドン）において研究に専念している。

#### (2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け (ISI citation など) など。

1. 根元義章教授らが仙台地域知的クラスター創成事業で行なったネットセキュリティ技術に関する研究成果が活用されて、(株)サイバー・ソリューションズからイントラネット利用端末の監視装置「NetSkateKoban」が製品化され、販売されており、2006年産学官連携特別賞を受賞した。
2. 邑本俊亮助教授、尾畑伸明教授および今井秀雄助教授は優れた授業実践ならびに授業の改善・工夫をしたことが高く評価され、各々平成17年度総長教育賞、平成17年度全学教育貢献賞および平成18年度全学教育貢献賞を受賞している。
3. 篠原歩教授および田所諭教授の研究室は、各々ロボカップジャパンオープン2006北九州の4足リーグおよびレスキュー実機リーグで準優勝している。  
その他の受賞では次のようなものが挙げられる。
  - ・平成18年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（研究部門）を根元義章教授が、若手科学者賞を小林直樹教授、福本潤也講師および河原林健一助手（現国立情報学研究所助教授）が受賞している。
  - ・秘密鍵共有通信プロトコルの研究により、第4回国際コミュニケーション基金優秀研究賞を西関隆夫教授と水木敬明助教授が受賞している。
  - ・ソフトウェアプログラムの安全性に関する研究により、住井英二郎助教授は情報処理学会東北支部野口研究奨励賞を受賞している。
  - ・大規模データクラスタリングおよびバイオメトリックス認証システムの研究により、各々滝沢寛之講師および伊藤康一助手が第5回船井情報科学奨励賞を受賞している。
4. 情報科学研究科は学際的かつ総合的な情報科学を目指しており、研究科の活動全体をカバーする単一のFieldはISI citationには存在しない。なお、東北大学はComputer ScienceのFieldにおける発表論文数で全世界で120位に、被引用回数では273位にランク付けされており、国内の大学の中では各々5位と6位である。

- ・情報科学研究科の「主な成果またはトピックス」としては教育関連として次を挙げます。

見出し：

ICTリテラシー国際会議を平成18年12月21日ー23日に開催しました。世界の情報科学のスーパースターが一堂に会して、今後10年のICT教育と研究について展望しました。

和文Web Page: <http://www.math.is.tohoku.ac.jp/~ICT/>

英文Web Page: <http://www.math.is.tohoku.ac.jp/~ICT/ICT-english.html>